2024_1_15 更新
2014_9_24 クヌキの木の高さ考察
2014_9_20 高田宮行宮址追加
2014_9_12～24 付

ホツマツタヱ講座　特別講座

景行天皇　筑紫巡幸で見た
タカタ宮（大牟田市歴木）のクヌギの木の高さは　どの位だったか？
マエヤマ　アワミサキとは、島原市大三東で正しいか？　（10 頁視）

ホツマツタヱ研究家　吉田六雄

Ⅰ、タカタ宮

一、景行天皇、筑紫への御幸

景行天皇の御世の十二年七月、南九州の熊襲が背いて貢をしてこなかつた。そのため、スメラギ（天皇）は筑紫にヲシテ（親書）を送られた所、筑紫のクニツコ（国造）から熊襲の御狩を依頼してきた。これは唯ものでないことを察せられたスメラギ（天皇）は、八月望（十五日）より御幸され、周防、宇佐、豊国(行橋市、大分県)を廻られて、十一月に日向（宮崎県）の高宮に到着された。

二、熊襲兄アツカヤ、実娘の姉に殺される

十二月五日諸を集めて熊襲征伐を打ち合わせされて、「矛借らず　平けん」、「隙を窺い　虜（とりこ）にす」と、穏便に熊襲を生け捕りにすることを提案された。そして、熊襲の姉妹を召して御許(おそば)に置いて恵みなされた。だが、その姉は君の憂いを察したのであろうか。姉が兵に申すには、「君な憂いそ　謀らん」と云い、兵を連れて家に帰るや酒をあたた(沢山)に飲ませて、酔い潰れた父(熊襲)を弓の弦にて殺してしまった。

三、兄アツカヤ、亡き後の熊襲の平定

スメラギ（天皇）は、「姉が肉親を断った」とのことを聞かれるや、君の御心を理解してくれなかったと嘆かれて、姉を憎み殺された。その変わり御心を理解していた妹は襲緒のクニツコ（国造）と結婚させて、スメラギ（天皇）は「筑紫を平定させたい」と申されて、十六年まで高屋の宮に滞在された。

四、児湯県ニモ野の御幸

十七年三月十二日宮崎県の児湯県ニモ野に御幸されて、「昔、高千穂の峰に登られて神となられたニニキネ、日の山の朝日に辞なまれたコノハナサクヤ姫を偲ばれました。」

五、帰路、高田宮大御木　朝日影、夕日影

十八年三月都帰りのため、日向の高宮を出発され、宮崎県小林、四月三日熊本県球磨、五月初日に八代、六月三日高来県、玉名、十六日阿蘇国、七月四日筑紫道後の高田（注1）宮に入られた。高田宮に到着されると、宮の翁から「御神木である大御木が倒れた」時の話を聞かれました。倒れた木を見ると、長さが九百七十丈もある大御木でした。人々は、往来の度に大御木を踏み越えながら、「朝霜の　御木の竿橋　前つ君　いや渡らずも　御木の竿橋」と歌っておりました。その歌の意味について君が問われると、高田宮の翁は、この木は「クヌギなり　倒れぬ前は　朝日影　杵島峰（佐賀県武雄市近郊の南の山）にあり　夕日影　阿蘇山覆ふ　神の御木」でしたと申されたのでした。そこで景行天皇は、この御神木にあやかり、高田宮のある「国もミケとぞ　名付けます」と申されました。

1、高田宮の大御木の影が作る「朝日影、夕日影」が、杵島峰、阿蘇山を覆ふ記述の検証(1)

果たして、杵島峰、阿蘇山を覆ふとの記述は、正しいか？

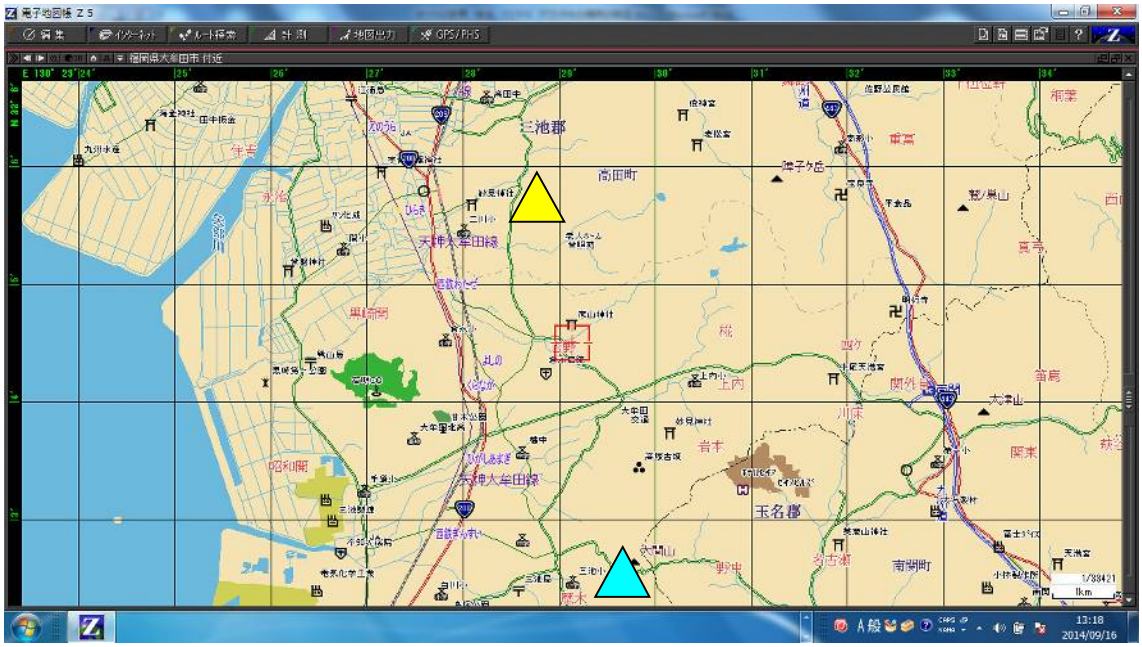
1） タカタ宮、クヌギ、ミケの位置と変遷

まず、ホツマツタヱの記述を整理しますと、景行天皇が高田宮に到着された後の地名として、(1)タカタ宮、(2)クヌギ、(3)ミケの言葉が見えます。現在の地図上の位置では、北に高田町、約6Km 南に三池町、約1．5Km 南に歴木町と云うのが概略の位置関係です。(詳細は添付の地図を参照して下さい。)

地図上の説明

・地図の上方の黄色の△印は、高田町付近になります。

・下方の水色の△印付近は、三池町、歴木町付近になります。



(1)タカタ宮

A、タカタの所在

高田は、1931 年(昭和6年)10 月 1 日 江浦村・二川村・岩田村が対等合併し、高田村が発足するなど、高田の名が見えます。その後、高田は、村→町→2007 年(平成19年)1 月 29 日に合併により消滅し、同時にみやま市となっております。また高田村は昭和になって出現しておりますので、その語源がホツマに関係するか否かについて、今後の調査を待ちたいと思います。

B、高田宮

高田宮について、三池、歴木でHPを検索した所、HP「千寿の楽しい歴史」に、高田宮行宮址のHPの紹介がありましたので引用しました。当HPによりますと、高田行宮跡の碑が、日本書紀を基に地元の教育会により、大正4年に建設されたとのことです。　HPアドレス　http://kusennjyu.exblog.jp/15514617

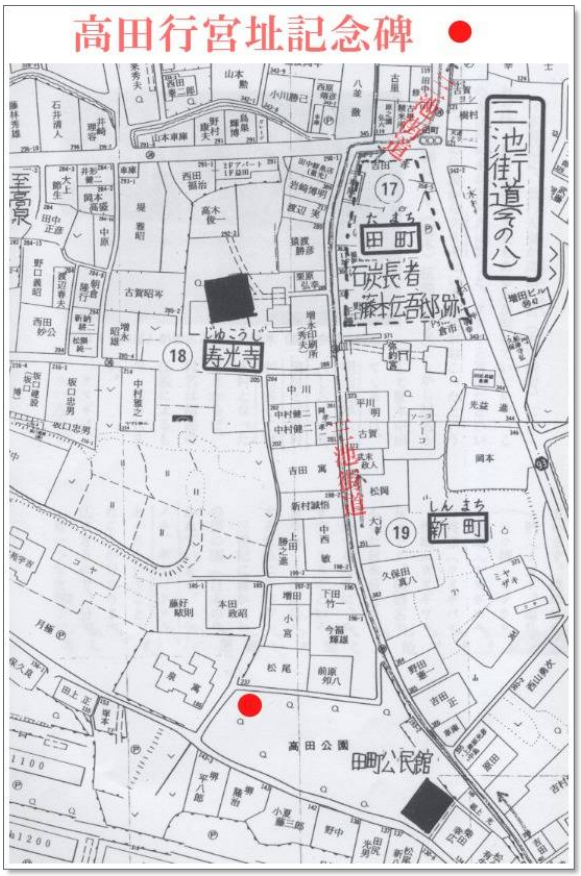
C、高田宮行宮址

大牟田市歴木(くぬぎ)の高泉という場所が、高田の行宮の地と伝えられ、大正4年に高田行宮跡の碑が建設された。　住所：大牟田市歴木(くぬぎ)　高田公園内

高田行宮址

楠の木

高田行宮址の地図



D、高田行宮址　　（HP引用資料）

a、旧柳川藩志　　中巻　　柳川山門三池教育会編　　p114

高田の行宮

三池町字高泉にあり。これ景行天皇西巡行宮の遺跡なり。およそ1反斗り高磑隆起自ら1区をなせり。

b、三池群誌　　福岡県郷土誌叢刊　　P675

高田行宮址

歴木字高泉にあり。日本書記に曰く。景行天皇18年秋7月30日、天皇到り筑紫後筑後国御木国高田の行宮に居ると、これ天皇熊襲親征の時御駐輦(てぐるま)なされしところで有る。前地附近の小字に帝橋、筒井御手洗、御幸返等が有る。大正4年秋今上天皇御即位大典記念として、本群教育委員会ここに碑を立て居る。

c、高田町誌　福岡県三池郡高田町　　P575～577

高田行宮の聖地址について

高田行宮の址は、三池群教育会の手によって三池町高泉の地を相し、ここに記念碑が建立された。

(2)クヌギ、(3)ミケ

(旧)三池町の中の歴木(クヌギ)、三池(ミケ)は、現在の大牟田市の東部の大字三池・新町・今山および歴木になります。1889 年(明治 22 年)4 月 1 日 - 町村制が施行により、三池(みいけ)、新(しん)の 2 町と今山(いまやま)、歴木(くぬぎ)の 2 村が合併して三池町が発足。1941 年(昭和 16 年)4 月 1 日 - 大牟田市に編入。御木小学は、のちの三池尋常小学校、現在の大牟田市立三池小学校に当たります。(上記は、ウィキペディア辞書より引用しました。)

2)、検証　朝日影と夕日影

高田宮の翁は、景行天皇にご説明された中に、この木は「クヌギなり　倒れぬ前は　朝日影　杵島峰にあり　夕日影　阿蘇山覆ふ　神の御木」と申されておりました。そこで、ホツマツタヱの記述が正しく、朝日影と夕日影が、杵島峰と阿蘇山に差掛るか、また覆ふ方向になるのかを検証しようと思います。そして検証結果の合否の判定基準は、太陽の日の出、日の入りの地図上の方角の角度に対し、杵島峰～高田宮行宮址、高田宮行宮址～阿蘇山の方角の角度より比較氣検証することにしました。

【条件設定】

(1)高田宮行宮址は、大牟田市歴木とします。

(2)杵島峰は、現在ある佐賀県武雄市近郊の南の山とします。

(3)阿蘇山は、現存の熊本県の阿蘇山とします。

(4)影の方向は、夏、春秋、冬において違いますが、ホツマツタヱの記述の歌に「朝霜の　御木の竿橋　前つ君　いや渡らずも　御木の竿橋」とありますので、「朝霜」から冬と判定します。なお、冬の月は不明ですが、九州で霜が降りるのは、一般的に「12月初旬」ですが、区切りとして、2014年1月1日の「日の出、日の入り」の時の太陽の方角の反対方向を影の方角としました。また日の出入りの場所は、有名な地名がHPに掲載のため、今回はホツマツタヱの記述と一致する熊本県の阿蘇山にしました。

阿蘇山　日の出、日の入り

時刻　／　項目	日の出	方位可角	日の入り	方位可角
2014年1月1日	7時11分	約116°	17時26分	約243
2014年6月1日(ご参考)	5時　1分	約　62°	19時25分	約298°

(ご参考)方位角の読み方

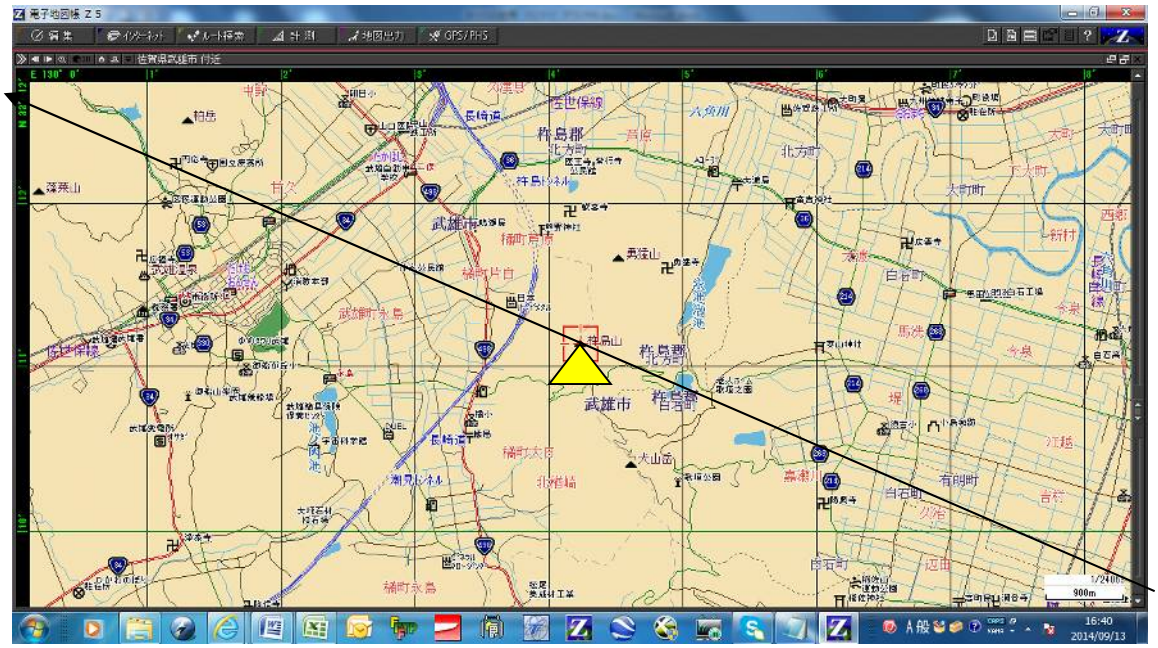
北:0度、東:90度、東南東:112．5度、南:180度、西:270度、西南西:247．5度

3)、検証　地図上の高田宮行宮址、杵島峰、阿蘇山の位置確認と三個所の位置関係

ゼンリンの地図情報より、高田宮行宮址、杵島峰、阿蘇山に目印△印を付与しました。

(1)地図上の杵島山の位置

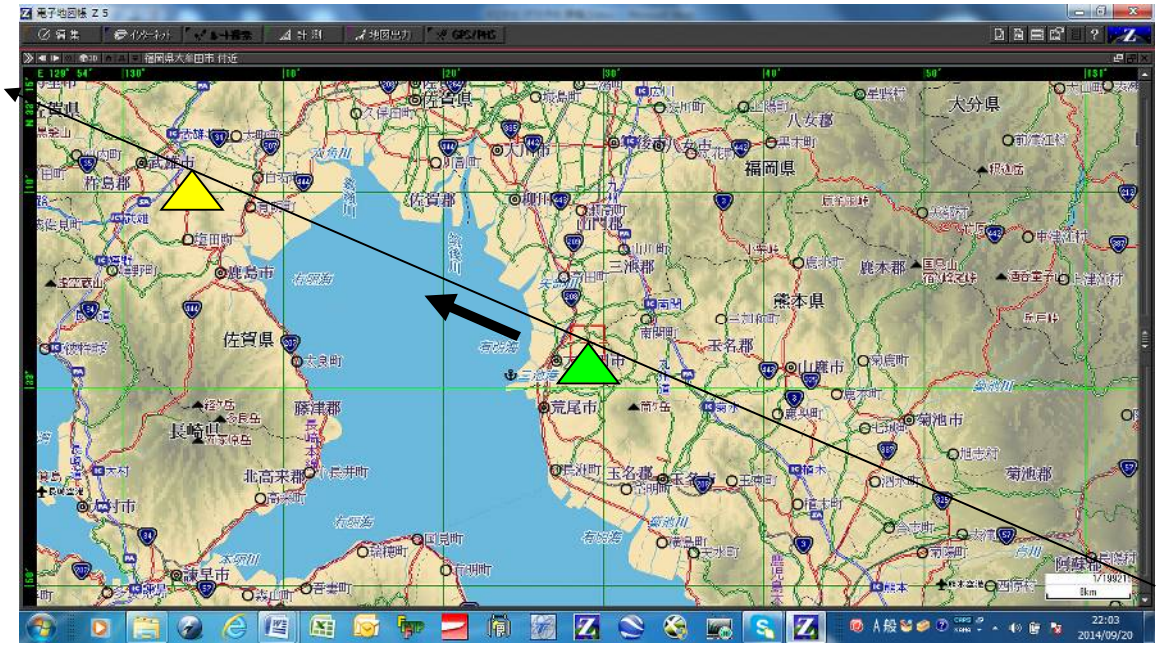
杵島山：黄色の△印



(2)杵島山～高田宮行宮址の位置関係と方位線

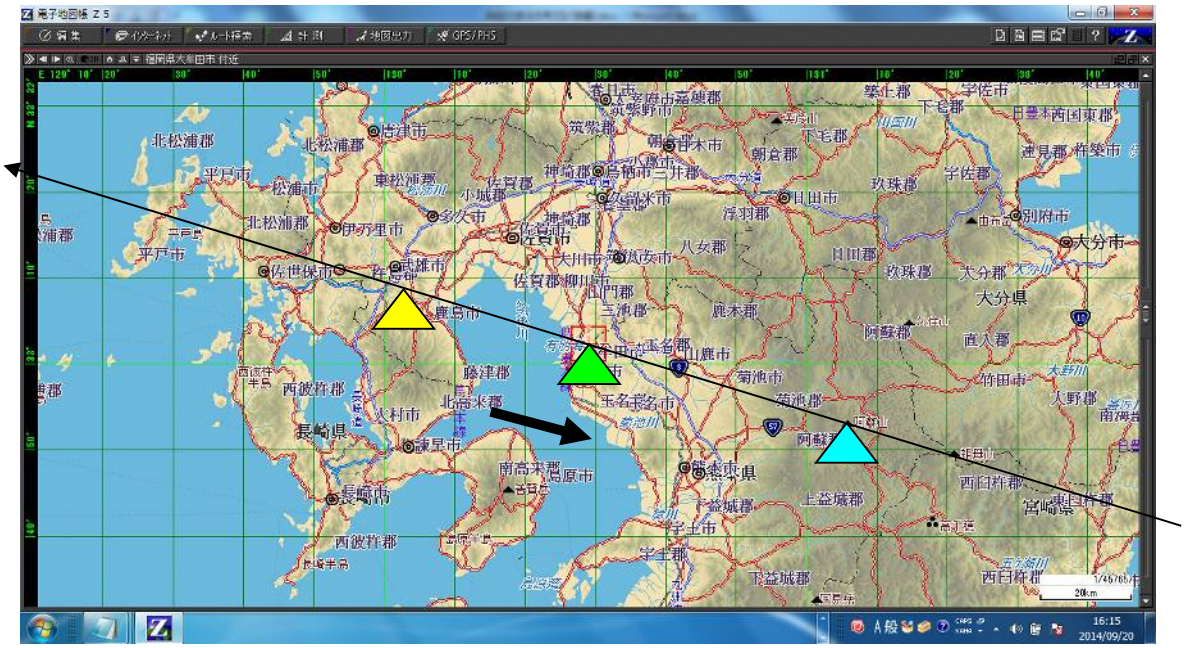
地図上の杵島山(黄色の△印)、高田宮行宮址(緑色の△印)を示してあります。

また、←印は朝日の方向を示し、朝日の方位角は約115度に作図されました。



(3)高田宮行宮址～阿蘇山の位置関係と方位線

地図上の高田宮行宮址(緑色の△印)、阿蘇山(水色の△印)を示してあります。
また、→印は夕日の方向を示し、夕日の方位角は約287度に作図されました。
(参考、杵島山:黄色の△印)



4)、作図上の杵島山～高田宮行宮址、高田宮行宮址～阿蘇山の方位角(まとめ)

高田宮行宮址を中心に、朝日影の方位角、夕日影の方位角をゼンリンの地図上より、簡便法にて割り出して来ました。その結果から判断しても、高田宮のクヌギの木が作る「朝日影　杵島峰にあり　夕日影　阿蘇山覆ふ」とのホツマツタヱの記述は、正確な記述であることが証明されたようです。

(1)朝日影　(朝日影は、上から下に掛かる)

高田宮のクヌギの木が、杵島山に朝日影を作る時期は、冬の朝と推定されます。その場合、日の出の方位角約116度に対し、約115度が求められました。夏の日の出の方位角は約62度で、高田宮より長崎県方向を照らすため、杵島山に朝日影は成立しないようです。

(2)夕日影　(夕日影は、下から上に覆ふ)

阿蘇山の夕日影は、夏の夕方の景色と推定されます。その場合、日の入りの方位角約298度に対し、約287度が求められます。冬の日の入りの方位角は約243度で、高田宮より福岡県八女市～日田郡間の方向を照らすため、阿蘇山の夕日影は成立しないようです。

日の出、日の入り時の朝日影、夕日影の作図確認結果

時刻　／　項目	方位角	作図結果	方位角	作図結果
高田宮～杵島山(2014年1月1日)	約116°	約115°	約243°	不成立
高田宮～阿蘇山(2014年6月1日)	約　62°	不成立	約298°	約287°

5)、タカタ宮　大御木倒れ　木の長さ　九百七十丈ぞ

景行天皇がタカタ宮を巡幸した時には、大御木は倒れていました。翁のお話では、その木の長さは九百七十丈と云う。だが、長さの単位が古代の物差(尺度)のため、現在のメートル法の尺度ではどの位であったかは誰にもわからないようです。だが、四項で、「クヌギなり　倒れぬ前は　朝日影　杵島峰にあり　夕日影　阿蘇山覆ふ」について、(1)冬の朝日影が、杵島峰にあり、(2)夏の夕日影が、阿蘇山覆ふであることがわかりましたので、数学的に「クヌキの高さ」を推定して見ようと思います。

A、条件設定

(1)高田宮行宮址(大牟田市歴木)の海抜、杵島山、阿蘇山(高岳)の標高を調査します。
(2)杵島山～高田宮行宮址、高田宮行宮址～阿蘇山までの距離を算出します。
(3)ホツマの記述「クヌギなり　倒れぬ前は　朝日影　杵島峰にあり　夕日影　阿蘇山覆ふ」を
　三角関数に置き換えて、クヌギの木の高さを推定する式を模索します。

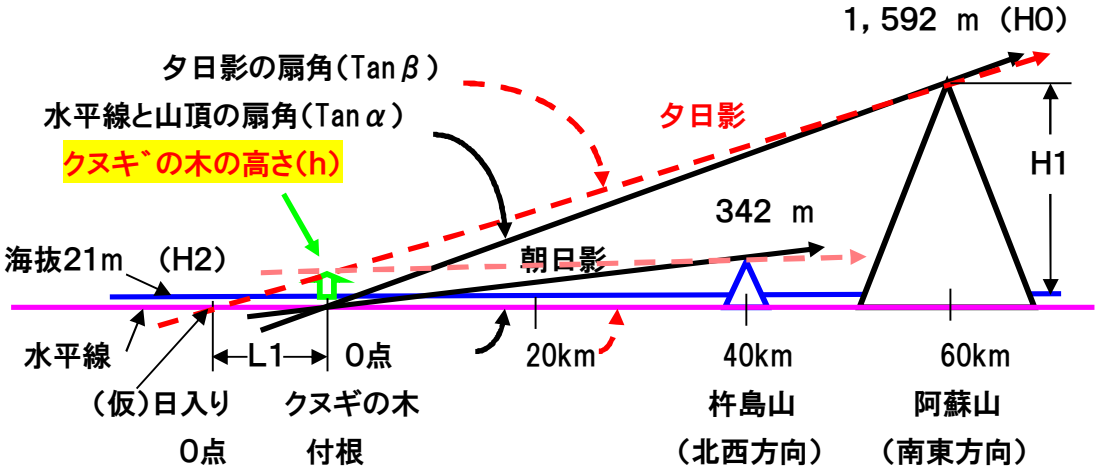
B、調査結果

(1)(2)地図上の距離、高さ(標高)

項目	高田宮行宮址	杵島山(犬山岳)	阿蘇山(高岳)	杵島山～高田宮	高田宮～阿蘇山
地図値	21　m	342　m	1，592　m	41．8　km	60．1　km

C、イメージ図

「クヌギなり　倒れぬ前は　朝日影　杵島峰にあり　夕日影　阿蘇山覆ふ」



(地図上は、杵島山が北西方向、阿蘇山は反対の南東方向になります。)

D、イメージの計算の考え方

水平線上に(仮)日入り0点を設定します。その0点と山頂を結ぶ線と、水平線(0点からクヌギの木の付根を通過し、山の底辺の線)とが、織り成す扇角を(仮)計算します。その(仮)計算値を用いて、三角関数を逆算しクヌギの木の高さを推定しようと思います。なお、0点からクヌギの木の付根までの距離(L)とクヌギの木の高さ(h)は、(仮)値を数個を代入し、古代のクヌギの木の高さ(h)の高さを想像しょうかと思います。(ホツマの記述のクヌギの木の高さは「九百七十丈」ですが、現在のメートル法の尺度に換算できておりません。)作図の破線は、夕日影(クヌギの影光)を示し、実線はクヌギの付根から山頂までの引出し線を示します。

E、計算結果

(1)クヌギの木の付根(海抜21m)下の水平線と阿蘇山山頂までの扇角の計算結果

①クヌギの木の付根(海抜21m)の水平線からの扇角は、約1．517°になります。

【計算式】

tan α ＝ (H1＋H2)÷(L1＋L2)・・・・・(a)

H0:阿蘇山の全高さ、 H1:阿蘇山の高さ(H0)より海抜(H2)を差し引いた高さ

H2:海抜、 L1:日入り0点～クヌギの木の距離、 L2:クヌギの木～阿蘇山の距離

(単位:α以外は mです。)

クヌギの木 (h)	0点～クヌギの木 (L1)(仮)	高田宮～阿蘇山(L2)	阿蘇山 (H1+H2)	高田宮の海抜 (H2)	扇角 α(度数)	扇角 α(角度)
-	-	60,100	1592	-	0.026489	1.517

(2) (1)項の計算式に、日入り0点～クヌギの木の付根までの距離の(仮)値を2000mに設定・追加した場合の扇角の計算結果

②日入り0点からの扇角は、約1．467°になります。

【計算式】

Tan β ＝ (H1＋H2)÷(L1＋L2)・・・・・(a)　　(単位:β以外は mです。)

クヌギの木 (h)	0点～クヌギの木 (L1)(仮)	高田宮～阿蘇山 (L2)	阿蘇山 (H1)	高田宮の海抜 (H2)	扇角 β(度数)	扇角 β (角度)
-	2000	60,100	1571	-	0.025636	1.469

(3) (2)項の計算式を逆算し、クヌギの木の高さ(仮)値を求めた結果

③結果は、約30．3mになります。

【計算式】

L1 ＝ ((H1＋H2)×tan β) － L2・・・・・・(a‘)

H1 ＝(L1＋L2) ／tan β － H2・・・・・(a‘‘)

h ＝ L1×tan β － H2・・・・・(b)　　(単位:β以外は mです。)

クヌギの木 (h)	0点～クヌギの木 (L1)(仮)	高田宮～阿蘇山(L2)	阿蘇山 (H1)	高田宮の海抜 (H2)	扇角 β(度数)	扇角 β(角度)
30.3	2000	-	-	21	0.025636	1.469

【試行的したクヌギの木の高さ】

現在、ホツマの記述のクヌギの木の高さである「九百七十丈」の寸法が、メートル法に換算できておりません。そのため、0点～クヌギの木までの距離を変化させた場合のクヌギの木の高さを推定して見たいと思います。なお、高田宮行宮址の海抜は21mですので、海上より見ると、相当に高いクヌギの木になるようです。

クヌギの木の高さの試行値(仮)　　(単位:β以外は mです。)

クヌギの木(h)	海上より見たクヌギの木の高さ(h+H2)	0点～クヌギの木゛(L1)(仮)	高田宮の海抜(H2)	扇角β(度数)	扇角β(角度)
4.6	25.6	1000	21	0.025636	1.469
17.5	38.5	1500	21	0.025636	1.469
30.3	51.3	2000	21	0.025636	1.469
43.1	64.1	2500	21	0.025636	1.469
55.9	76.9	3000	21	0.025636	1.469

(注3)関係距離

・高田宮行宮址と海岸(大牟田市新開町)のでの距離は、約5.5Kmです。

・夏の日に日の入りする対岸(佐賀県)杵島郡有明町までは、約30Kmになります。

6)タカタ宮クヌギの木の高さの考察(まとめ)

大辞林でクヌギを調べますと、「わが国の本州、岩手・山形県以南から四国・九州それに朝鮮半島や中国、東南アジアに分布しています。丘陵から山地に生えて、高さは15メートルほどになります。」と記載されておりました。

また、夏の日にタカタ宮のクヌギの木が、「阿蘇山を夕日影で覆ふ」とのホツマの記述について、現在の地図上の数値と、三角関数を駆使して、クヌギの木の高さを推定する計算式を構築することができました。だが、ホツマツタヱに記述の「九百七十丈」の古代の物差しの尺度が掴めてないため、ホツマの尺度とメートル法の尺度を対比することはできてやりませんが、早い時期に、タカタ宮のクヌギの木の高さを計算できる日も近いと思います。今後、皆様方のご協力を得られると幸甚と思います。

ホツマツタヱ講座　特別講座

景行天皇　筑紫巡幸で見た
タカタ宮（大牟田市歴木）のクヌギの木の高さは　どの位だったか？
マエヤマ　アワミサキとは、島原市大三東で正しいか？

ホツマツタヱ研究家　吉田六雄

Ⅱ、マエヤマ、アワミサキ

一、八つ女お越えて　マエヤマの　アワミサキ見て

ホツマツタヱの記述

景行天皇の一行は、高田宮(福岡県大牟田市歴木)を後にされて八女（市）に向かわれた。八女（市）は高田より約20Km 北東に位置しており、現在の八女（市）の市街を越えて、小高い山を登る段になりました。時は、旧暦の七月から八月頃の秋の快晴の日だと思われます。君の一行の前にあった雑木林の視界が、急に開けた南南西の方向を見ますと、遥か向こうに「マエヤマの　アワミサキ」が見えて来ました。その風景をホツマツタエは、「八つ女お越えて　マエ山の　アワミサキ見て」と記述しておりました。そして、景行天皇は、山の上より八女の地の畳畑を見られて、「麗わしが、国神がいるのか」と申された。八女の地神である「ミヌサルオウミ」は、即座に云うには、「八つ女姫神が峰に鎮座しております。」と申し上げました。

日本書紀の記述

この「マエ山」と「アワミサキ」について、日本書紀には、「到八女県。則越藤山、以南望粟岬。」と記述しており、「マエ山」の記述が省略されておりました。このことからも日本書紀の編集者は、「マエ山」の地名、場所が不明だったようです。また「アワミサキ」も「粟岬」と漢字に変換しておりました。なお、日本書紀の藤山は、北方向の久留米市と南の八女市の中間に位置する町になるようです。

日本書紀（武田祐吉校注）の記述

丁酉、到八女県、則越藤山、以南望粟岬、

訳文

丁酉（七）の日、八女の県に至り、藤山を超えて、南の方粟岬を望（ほせ）りたまひき。

1、景行天皇の一行が見た「八つ女お越えて　マエ山の　アワミサキ見て」記述の検証（2）

マエヤマ　アワミサキとは、島原市大三東で正しいか？

1）、マエ山、アワミサキの日本書紀の記述

マエ山は、日本書紀では消されているが、どこにある山か？　またアワミサキは、漢字で粟岬と記述されていたが、これは正しいか？

2）、マエ山とは、どこにある山か？

20年前にホツマツタヱと出合った時より、「マエ山」は故郷の山のことではないかと思い続けておりました。

3)、マエ山は、八女市より見えるか？

　この20年間、九州に関するホツマツタヱ伝説を捜しておりますが、2014年9月4日のこの日も、HPで探索しておりました。この日は、たまたま八女の周辺を探索しておりました。そこで、やっと、八女より「晴れた日には遠く有明海や島原半島も望むことができる」とのHPに出合ったのです。この出合いは、20年の思いが成就し、「やはり　マエ山は、故郷の山のことであった」と感無量になった記憶があります。下記の写真には、島原半島は見えませんが、直接に電話で確認しますと、「秋の晴れた日は、遠くにぼんやりと見える」とのことで、HPに掲載の通りでした。また写真を撮影した場所も教えて頂きました。下記は、そのHPより抜粋した一部です。ご覧下さい。

【八女中央大茶園★】に関するHPの抜粋

八女茶のポスターなどでよく目にしていた「八女中央大茶園」★

　・・（前略）・・約65ha の広大な敷地に緑のじゅうたんを敷きつめたような茶畑が広がるその風景は想像よりもはるかに素敵で、思わず歓声を上げてしまうほどでした！

　茶園の頂上には展望所があり、茶畑だけでなく八女市街や矢部川も見渡せ、晴れた日には遠く有明海や島原半島（含む雲仙岳、マエ山、アワミサキ）も望むことができる素晴らしいロケーションです。

引用HPのアドレス　http://ecruzakka.exblog.jp/21896560/

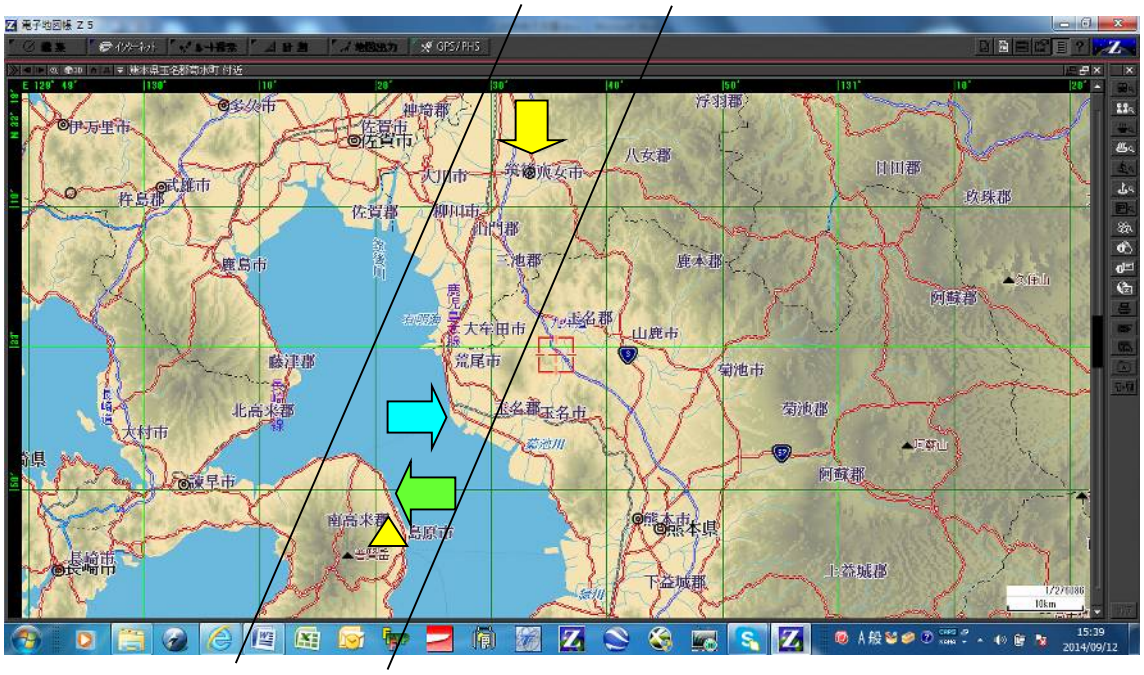
4)、マエ山は、現在の眉山（マユヤマ）のことであった。

　故郷のマエ山について少しお話しますと、マエ山と云う名を知っている人は、ある地区の人のみと思います。なぜかと云えば、現在では、マエ山と云う名は、正式な山の名ではないからです。このマエ山の読み名は、今では方言というか、部落（比較的少数の民家が集まっている地区）の言葉であり、「マィヤマ」と発音します。イメージの漢字では、前山になります。

　だが、正式な名称は、眉山と書いて「マユヤマ」と発音します。この山の場所は、長崎県島原半島東部になり、雲仙岳（平成新山、普賢岳）の側火山になります。また熊本県側より見ますと、平成新山の手前になり、実質の前山に見えます。八女市（近接の写真は、長洲より撮影）の方向より見ると、雲仙岳の前の山だから、マエ山と名付けたのも頷けるようです。（この項の一部は、世界百科事典を引用しました。）

5)、地図上の八女とマエ山の位置関係

二つの位置関係は、八女市(黄色の⇒印)、マエ山(黄色の△印)を示しましたが、八女市より見たマエ山(黄色の△印)は、南南西～南西の方向になるようです。また水色の⇒印は、長洲町、下の緑色の⇒印はアワミサキ(現在の島原市有明町大三東)になります。



6)、熊本県長洲の船上より見たマエ山、アワミサキ、雲仙岳(平成新山、普賢岳)

四項の地図において、長洲(水色⇒印)、アワミサキ(緑色⇒印)を表示しましたが、その長洲の船上より見た島原半島の風景写真を掲載しました。写真の左端がアワミサキ(大三東)、左側の山がマエ山(眉山)、そして中央が雲仙岳になります。

↑　　↑　　↑

アワミサキ　マエ山　　雲仙岳

(大三東)　(眉山)　　(左側:平成新山、右側:普賢岳)

写真のHPアドレス　http://www.shimabara.jp/terumi/sub7.html

7)、最後になりますが、アワミサキは、現在の地名では「大三東」であった。

アワミサキを、なぜ大三東と命名したかである。だが、この名称を付けた張本人は既に過去になっており、当時のことは不明のようです。そこで、アワミサキの命名を再考して見たいと思います。まず、漢字に置き直して見ますと、アワミサキ→淡三崎(アワミサキ)とも書けます。

【アワ】

そこで、「淡」の読み方について、おうみ【近江・淡海】の知識を借用します。すると、淡は「オウ」とも読まれております。その「オウ」は、近代では「オオ」であり、「オオ」の漢字は「大」を当てているようです。例として、「オウカミ」は、「オオカミ」であり「大神」との記述になっております。このことから「アワ」を漢字に変換の過程から「オオ」、「大」に書かれるようです。

【ミ】

三は、「ミ」の読み方で問題ないでしょう。

【サキ】

崎は「サキ」であり、ヲシテの一音節で「サ」は南であり、「キ」は東になります。古代での「サキ」とは、南東の方向を云ったようです。また、太陽が登る方向を「サキ」とも読んでおり、東の方向も大きな意味では、「サキ」に含んだようです。このように判断しますと、「サキ」の漢字は、「岬」、「崎」、「東」、「先」が当てられます。

上記のように各々について結果して来ましたが、景行天皇が「八つ女お越えて、マエ山のアワミサキを見て」のアワミサキは、現在の大三東で間違いないかと判断されるようです。現在の住所は、長崎県島原市有明町大三東に該当するようです。

8)、マエヤマ　アワミサキ　ホツマツタヱの記述

【ご参考】

【原文】　カナ文字に変換してあります。

38アヤ(紋)68(4 行)～73(1 行)

アフミヨカ　　ツクシチノチノ
タカタミヤ　　オホミケタオレ
キノナガサ　　コモナソタケゾ
モモフミテ　　ユキキニウタフ
アサシモノ　　ミケノサオハシ
マヘツキミ　　イヤワタラズモ
ミケノサオハシ
キミトエバ　　オキナノイワク
クヌギナリ　　タオレヌサキハ
アサヒカゲ　　キジマネニアリ
ユフヒカケ　　アソヤマオオフ
カミノミケ　　クニモミケトゾ
ナヅケマス　　ヤツメオコエテ
マエヤマノ　　アワミサキミテ
キミイワク　　タタミウルワシ
カミアリヤ　　ミヌサルヲウミ
モフサクハ　　ヤツメヒメカミ
ミネニアリ

訳文

38アヤ(紋)68(4 行)～72(1 行)

(景行天皇十八年)

七月四日　　筑紫道後の

タカタ宮　　大御木倒れ　　タカタ宮→(現)みやま市高田町、(旧)三池郡高田町が存在するが、それ以前の高田村は、1931 年 10 月 1 日の改編にて、江浦村・二川村・岩田村が対等合併した際に、高田村が発足しております。そのため、高田村の起こりを現地にて再調査する必要があります。そのことで、ホツマツタヱ当時の「タカタ宮」を起源としているかも確認する作業が残されております。その後、高田宮行宮址を大牟田市歴木の高田公園内に、大正4年に設定されたとの情報をHPより得ました。

木の長さ　　九百七十丈ぞ

百百踏みて　　往来に歌ふ

「朝霜の　　御木の竿橋　　竿橋→枝・葉を取り払った竹や木の細長い棒の橋。

前つ君　　いや渡らずも　　前つ君→　前の君か、前に立つ君かの意味であろう。

御木の竿橋」

君問えば　　翁の曰く

クヌギなり　　倒れぬ前は　　クヌギ→ブナ科の落葉高木。(俗に、どんぐりの木)

朝日影　　杵島峰にあり　　杵島峰→佐賀県武雄市の杵島山

夕日影　　阿蘇山覆ふ

神の御木　　国もミケとぞ　　ミケ→御木→(旧)三池郡

名付けます　　八つ女お越えて　　八つ女→八女市

前山の　　大三東見て　　マエヤマ→前山→眉山(辞書:マユヤマ、方言:マエヤマ)
アワミサキ→淡三崎(アワミサキ)→淡三崎(オウミサキ)
→大三東(オウミサキ)

君曰く　　畳麗わし　　畳→畳の原料となるイグサ(藺草)であり、全土に生える。

神ありや　　ミヌサルオウコ　　ミヌサルオウコ→人名

申さくは　　八つ女姫神

峰にあり

(おわり)